

海外事務所だより

ニューヨーク事務所

2014年3月の活動報告

～観光・特産品PRから、クレアレポート完成まで～

(一財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所上席調査役 犬丸 淳 (総務省派遣)

3月といえば、地方自治体では、年度末の事務処理などに追われて、多忙をきわめる時期だと思えます。ここニューヨーク事務所でも、月末で帰国する職員がクレアレポートの仕上げや帰国の準備に追われ、残る職員は業務の引き継ぎや新規赴任職員の受け入れの準備に当たるなど、1年で最も慌ただしい時期の一つです。

一方、アメリカでは、日本のように年度のサイクルが統一されておらず、例えば、連邦政府は10月、ニューヨーク州は4月、ニューヨーク市は7月から、それぞれの新会計年度が始まり、子どもたちの学校は9月から新学年がスタートして6月に終わるといふ具合で、3月といっても、日本のような年度末の雰囲気はありません。ただし、長かった冬がようやく終わりに近づき、いよいよ春を迎えようという雰囲気は、日本と共通していると思えます。

そんな中、ここニューヨークでは、本格的な春到来の直前というタイミングを捉えて、旅行関係のイベントをはじめ、さまざまなイベントが相次いで開催されました。そこで、本稿では、各自治体から派遣された所長補佐の活躍を含め、当事務所の2014年3月の活動状況をご紹介します。

ニューヨークタイムズ・ トラベルショー

2月28日から3月2日の3日間、ジェイコブ・

ジャビッツ・コンベンションセンターというマンハッタンにある大規模国際展示場において、ニューヨークタイムズ・トラベルショーが開催されました。本イベントは、全米最大規模の旅行見本市であり、毎年、世界各地から500を超える関連団体が出展しています。



ニューヨークタイムズ・トラベルショーの様子

当事務所は、日本政府観光局および在ニューヨーク総領事館が主催するジャパンブースに共同参加し、全国の自治体の観光パンフレットを用いて、PRを行いました。ブース運営に参加した当事務所の藤井補佐（広島市派遣）によれば、来訪者は旅行業界の関係者か、一般の方でも17ドルという決して安くはない入場料を支払ったうえでの参加者であるため、日本に旅行することを前提としたうえで、例えば「広島ではどこのホテルに泊まればよいか」、「宮島にはどうやって行けばよいか」、「JRのレールパスは買った方がよいか」

など、具体的な質問をする方が多かったとのこと
です。

インターナショナル・レストラン & フードサービスショー

3月2日から4日までの3日間、前述のジェイ
コブ・ジャビッツ・コンベンションセンターにお
いて、飲食業関連の見本市であるインターナシ
ョナル・レストラン&フードサービスショーが開催
されました。この見本市には、ジャパン・パビリ
オンとして、多くの日本企業が参加し、それぞ
れの製品のPRを行いました。

自治体関係では、堺市が刃物屋5社とともに
「堺市ブース」として共同出展し、堺打包丁の展
示・販売とともに、伝統工芸士の田原俊一氏に
よる包丁研ぎの実演コーナーを設けてPRを行
いました。当事務所の大野補佐（堺市派遣）によ
れば、堺市の出展は今年で4年目であり、毎年
来場してくれる常連のシェフやバイヤーも増
えてきており、ニューヨークにおける堺の刃
物の認知度が着実に向上していることを実感
したとのこと
です。



インターナショナル・レストラン&フードサービスショーの様子

また、松江市からは、同市が実施する松江和菓子海外販路開拓・拡大事業の補助を受けた事業者が、松江和菓子の販売促進ブースを出展しました。当ブースでは、当事務所の吉川補佐（松江市派遣）が、ブース運営の支援と併せて、松江市の観光PRを行いました。同補佐によれば、プロのバイヤーから取引方法などに関する具体的な質問も数多くあり、今後の具体的な取引への発展が期待で

きるとともに、来場したプレス関係者に松江市の観光PRをすることもでき、松江和菓子との相乗効果で観光PRにも手応えを感じるイベントであったとのこと
です。

ジャパン・ウィーク

3月6日から8日の3日間、マンハッタンの中心部に位置して、毎日、通勤、買い物、観光などの多数の利用者で賑わうグランドセントラル駅のホールにおいて、日本の食や文化、観光などを紹介するイベントであるジャパン・ウィークが開催されました。



ジャパン・ウィークの様子

当事務所は、日本政府観光局のビジット・ジャパンブースに共同参加し、全国の自治体の観光パンフレットを用いて、PRを行いました。私自身も、ブースで来訪者の対応をしましたが、例えば倉敷や高山など訪問先を絞ったピンポイントの質問から、「日本の陶器に興味があるのだが、どこを訪問すればよいか」、「10月に日本に行くのだが、ベストスポットはどこか」など、日本への旅行を前提とした具体的な質問を数多く受けました。

また、自治体で唯一単独でブース出展をした堺市は、堺打包丁の展示と、2017年以降の世界遺産登録をめざす「百舌鳥・古市古墳群」のPRを行いました。特設の上映ブースでは、日本最大の前方後円墳「仁徳陵古墳」の内部をバーチャル映像で紹介し、注目を集めていました。

福島大学からの訪問団

3月7日には、外務省が推進する北米地域との青少年交流事業である「KAKEHASHI（架け橋）プロジェクト」の一環として、ニューヨークを訪問していた福島大学の学生23人が、当事務所を訪問してくれました。

はじめに、当事務所のギラム上席調査員から、当事務所の活動についてプレゼンテーションを行い、続いて学生側からも英語でプレゼンテーションが行われました。その内容は、東日本大震災の影響により自宅を追われ、仮設住宅での生活を余儀なくされている子どもたちのために、福島大学の学生らがボランティアとして実施しているさまざまな支援活動に関するものでした。震災後に、福島の子どもたちの肥満度が全国1位へと急速に悪化したことなどを踏まえ、学生たちが自発的に、自らできることに一生懸命に取り組んでいる姿は、日本人はもとより、多くのアメリカ人からも共感を得ることができるであろう、素晴らしい内容でした。

ペース大学大学院での出前講座

3月13日には、当事務所の職員が、ペース大学大学院の学生（主に社会人学生）を相手に、日本の地方自治体についてレクチャーを行いました。当事務所では、かねて研修の一環として、職員が同校の授業を聴講している関係で、同校のナッパー教授から要請を受けたものです。

3時間という長時間の講義であるため、初めに私が日本の地方自治制度の概要を説明し、次いで鷺岡補佐（和歌山県派遣）が和歌山県の概要と県が抱える行政課題の一例として交通政策（貴志川線再生の取り組み）を紹介し、最後に吉川補佐が松江市の概要と同市が進めている外国人観光客誘致の取り組みについて紹介するという構成を取りました。全体を通じて、制度的な仕組みから自治体の最前線の行政課題まで、一通り説明できたのではないかと思います。学生からは、地方分権や市町村合併に関する質問をはじめ、多くの質問が出され、あっという間の3時間となりました。

クレアレポート2本の完成

3月は、上記のイベントと並行して、月末で帰任する職員のクレアレポートの総仕上げの時期でもありました。

鷺岡補佐のレポートは、「廃線を活用した都市公園開発～ニューヨーク・ハイライン公園の成功に学ぶ～」と題するものです。これは、すでに廃止されることが決まっており、地域のお荷物的存在であった高架貨物鉄道が、たった2人の近隣住民から始まった保存運動によって、美しい空中公園へと転換を遂げ、今や押しも押されぬニューヨークの観光名所の一つとなった理由とその魅力に、さまざまな角度から迫るものです。

大野補佐のレポートは、「NYC311とオープンデータ活用の取組み～ニューヨーク市の市民相談・情報提供・苦情処理解決システムと公開情報の活用～」と題するものです。これは、NYC311という、電話1本で市民の要望、相談、苦情処理すべてに対応するとともに、すべての情報をシステムで収集・一元管理する仕組みを紹介するとともに、そこで蓄積された膨大な量の市政情報を市の発展のために有効活用するため、オープンデータという誰もが自由に加工し利用できる形で積極的に公開していく取り組みについて紹介し、それによって市がいかに行行政の質と市民サービスを向上させようとしているのかを分析するものです。

いずれも、2人の当事務所における2年間の研修の集大成であり、当事務所が自信をもってお勧めするレポートです。ぜひ、ご一読をお願いします。

おわりに

以上のように、当事務所の3月は日本の年度末など関係なく、さまざまなイベントがめじろ押しの1か月となりました。本稿が、当事務所への職員派遣を含め、ニューヨークにおけるさまざまな活動を検討している自治体にとって、何らかの参考となれば幸いです。